

令和6年度 学校関係者評価表

学校番号	104	学校名	浜松市立高等学校
------	-----	-----	----------

スクール・ミッション	政令指定都市浜松唯一の市立高校として、文武両道の教育方針のもと「学業」と「人間性」の両面においてバランスのとれた教育を実践する「規律ある進学校」を目指し、グローバルな視野をもつリーダーとして広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。
スクール・ポリシー	〈グラデュエーション・ポリシー〉 ①文武両道の教育方針のもと、知・徳・体のバランスのとれた人間を育成する。 ②基礎的学力を十分に備え、自ら考え、判断し、行動できる人間を育成する。 ③グローバルな視野をもつリーダーとして、広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。
	〈カリキュラム・ポリシー〉 ①ICT教材の活用やAL型授業を通して、他者と協働して学び、思考し、判断し、表現する力と確かな学力を身に付ける。 ②総合的な探究の時間「浜市総合講座」を通して、地域社会との関わりから自ら課題を設定し、その解決能力を高め、自己の未来を切り拓く力を身に付ける。 ③生徒主体の生徒会活動や学校行事を通して、他者と協議しながら、自ら参画し、判断し、実現する、主体的に取り組む力を身に付ける。
	〈アドミッション・ポリシー〉 ①高い学習意欲を持って己を高め、自ら課題を見つけて、仲間と共に解決しようとする生徒 ②規律ある生活態度を身に付け、文武両道を目指して鍛錬に努めるとともに、学校生活のあらゆる場面に、自ら参加しようとする意欲を持つ生徒 ③地域から世界への視点をもち、国際社会においてリーダーとしての活躍を目指す生徒

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

今年度の取組(目標具現化の柱 スクールポリシー)		総合評価	
ア 校訓「誠・愛・節」のもと、 規律、責任、品位ある生活態度 を定着させる。 イ 知識・技能のほか、学ぶ意欲や自らで課題を見つけ課題を解決できる 確かな学力及び情報活用能力 を育成する。 ウ 家庭や地域社会等と 連携 して「社会に開かれた教育課程」を実現し社会に貢献できる リーダーとしての資質・能力 を育成する。 エ キャリア教育 を推進し、高い志のもと 進路を確実に実現する力 を育成する。 オ 安心・安全な教育環境を整備 する。 カ ICT化及び 業務改善 を推進し、 研修の充実 により教職員の資質能力・学校組織力の向上を図る。		B	「学校生活に満足している」について生徒・保護者ともに9割以上が「当てはまる」「やや当てはまる」との回答があった。その他の項目についても概ね8割以上の満足度を得ている。しかし、各取組において、「一部できていない」や「生徒のニーズに応じて」や活用にさらなる工夫が求められることなど、目標具現化に向けて来年度に参考となる成果と課題が挙げられた。

NO	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
ア	・「校門一礼」や挨拶の励行 ・正しい服装・言葉遣い指導 ・日常の交通安全指導、携帯安全教室・サイクルマナー教室の実施による事故やトラブルの未然防止	・「挨拶や言葉遣いはしっかりできている」「交通ルールやSNSのマナーを守る」等と答える生徒の肯定的自己評価を100%に近づける。 ・交通事故発生前年比10%減	A	教職員の指導により「挨拶や言葉遣いはしっかりできている」と答える生徒は95%を超え、多くの生徒は前向きに落ち着いた生活を送れているが、一部規律ある日常生活が確立できていない生徒がいる。
	・「進路ダイアリー」「進路資料」を活用する。 ・主体的な家庭学習の定着を図る。	・「進路ダイアリー」「進路資料」を活用していると答える生徒90%以上 ・月に2回以上家庭学習時間調査を実施し、生徒個々に適切な助言を行う。	A	模試の振り返りや長期休暇、受験期の学習計画を立てる際に、ほぼ全ての生徒が進路ダイアリー・進路資料を活用した。一方で、日常的に使用する生徒の割合を増やしていく必要がある。 1～2年生では毎月2回の家庭学習時間調査を実施して、適切に助言を行うことができた。 一方で「進路ダイアリー」「進路資料」の使用方法や頻度は担当に任されている部分が多く、職員間でどう活用するか共有し指導に生かす必要がある。生徒に良い活用例を提示するなどし、生徒の指導にどう生かしていくのか、生徒目線からも再考し変えるべきところは改良していく。
	・清掃指導を徹底する。	・「清掃をしっかり行っている」と答える生徒90%以上	A	生徒によって取り組み方に大きな差がある。 毎日の清掃指導を各担当で行い、校内を清潔に保つことができた。 アンケートでは肯定的回答が約94%あった。おおむね真面目に掃除をしているが、生徒によって取り組み方に大きな差を感じる(両極化)。 トイレの使い方のマナーやごみの分別、清掃分担の適正配置など普段からの声掛けや職員の適正配置についても今後考えていきたい。
	・各学年において初期・中期指導を実施し、勉強と部活動時間のバランス・心身の健康管理のとれた規則正しい生活習慣を定着させる。	・学年集会学期に2回以上。 ・「原則部活動時間19時まで」を徹底する。 ・定期試験一週間前までの特別許可以外の部活動禁止を徹底する。	A	各学期2回程度、適切なタイミングで学年集会を行い、規律ある学校生活を送らせることができた。 部活動の活動時間に関しては目標を達成でき、日頃の生活習慣や学習時間の確立を促す指導ができた。 3学年では、最上級学年として下級生の模範となる姿を涵養することができた。 定期テスト1週間前図書館開放を18:50まで延長している。多くはないが、各学年とも利用している生徒がいるので、使用教室を整理し、次年度も継続する予定である。

	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
イ	・きめ細やかな学習指導の実践 ・課題解決する力を育成する。	・「授業では学力を伸ばしてくれる」と答える生徒90%以上	A	生徒一人一台端末(クロームブック)の導入が全学年まで進んだ。今後は、生徒の思考力・判断力・表現力、主体性を育む学習内容の共有やICT機器を活用した生徒の活動を促す学習の実践事例や専門的知識に関する職員研修を全体研修や教科内研修等を通してさらに増やしていきたい。
	・個に応じた指導を推進し、学力伸長を図る。 ・新しい大学入試に対応した指導の実施(授業・検定・進路課外等)	・「進路指導が適切に行われている」と答える生徒90%以上 ・平日補習、土曜補習、夏休み補習の講座を充実させる。	B	3学年ともに、学年進路行事は実施できた。内容について、志望校の決め方や入試制度についてなど生徒の要望に応えるものを入れるなど検討が必要である。補習については、1学期補習、夏休み補習までは受講人数が比較的良好であったが、2学期以降の受講人数がここ数年、減少してきている。特に土曜補習は、生徒の希望が減少した。生徒のニーズに応えた補習のあり方(募集方法等)を検討し、また、補習の質を高めていく。
	・グローバル人材の育成 ・国際理解教育の推進	・エンパワーメントプログラムの充実・満足度90%以上(・留学の支援)	C	グローバルスタディズ(旧エンパワーメントプログラム)最少催行人数30名のため、1月末まで申込を延長した。費用が4万円以上かかり、生徒自身予定が立たない中で3日間の日程は躊躇する要因と思われる。留学に必要な書類を事務室や担任、英語科と協力して滞りなく準備することができた。今年度、留学生の受け入れはなかった。
	・読書活動を推進し、思考力・判断力・表現力を身につける。 ・将来に必要な知識・教養を獲得する。	・ビブリオバトルの実施 ・「朝読書」の主体的な実施 ・「図書室の蔵書は充実している」と答える生徒85%以上	A	ビブリオバトルに政策提言の視点を取り入れて、表現力を高めることができた。例年のビブリオバトルに探究的な内容を加えて実施した。朝読書では概ね主体的に取り組んでいた。年間を通して落ち着いた取組であるが、意義を再度伝えなくてはいけない生徒がごく少数いる。貸出数は昨年度よりも増えた。図書委員の広報や図書課職員が本を推薦する活動の成果だと考えられる。
	・授業改善を推進する。 ・観点別評価への対応を進める。 ・ICT機器を使用した授業の研究を推進する。 ・アクティブラーニング型の授業・ICT機器活用授業の研究を進める。	・授業公開一人年間1回以上、授業参観3回以上。 ・観点別評価に係る検討・改善の推進。 ・生徒による授業評価2回実施。 ・市教委・県教委の事業を利用した研修・授業検討会の実施 ・外部の研修講座等への参加の呼びかけ	A	授業担当教員の全員が授業公開を行った。3回以上の参観については、授業担当教員の90%が実施した。授業評価は全教科が2回実施し、各学期の比較検討を行った。他校の授業公開、講座等への参加の呼びかけも実施した。都市立高校合同研修会への参加者があった。アクティブラーニングの意義の伝達とさらなる推進を図る。教育課程検討委員会では、全教科主任が集まり、各教科における観点別評価における評価方法や評価規準の在り方について意見交換をし、授業改善や課題を中心に、校内全体で情報を共有し、専門的な知識を深めることができた。

	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
ウ	・進学校としての部活動の充実 ・社会貢献活動を推進し、人権意識を高め、思いやりある豊かな心を育む。 ・生徒が他者・外部と関わり合うことを大切にする。	・「部活動は充実している」と答える生徒90%以上 ・県大会以上出場20部活以上 ・年間で1回以上社会貢献活動(地域貢献活動・協働・連携等 自治会や同窓会との連携含む)を行う団体(部活動・委員会等)20以上	A	部活動の充実度はどの学年も90%を超え、全国大会出場は昨年度より減少したが、大多数の部活動が県大会へ出場することができた。生徒会を中心とした社会貢献活動も年々参加者を増やし、多くの団体が参加し行うことができた。
	・生徒会活動、学級活動、行事、部活動を通じ、社会で必要とされる資質能力を育成する。	・「学校行事が充実している」と答える生徒90%以上	B	1年生は90%を超えたが、2、3年生では85%弱と学校行事の充実度が下がってしまった。学習中心の学校生活は大切ではあるが、生徒のために高校生活の思い出となる心に残る行事も考えていきたい。
	・新聞記事掲載への働きかけ ・広報誌「いちりつプレス」やHP ・ブログ等を活用し積極的かつタイムリーに情報発信を行う。	・新聞記事掲載20回以上 ・掲載記事校内掲示2か所以上 ・ブログアクセス数月250回以上	A	ブログ、ホームページ、いちりつプレスにはタイムリーにきめ細やかな情報発信ができ、学校の様子を詳細に広報することができた。
エ	・体系的な進路行事の充実 ・総合的な探究の時間の充実 ・SDGsやESDの意識や推進 ・郷土愛、職業観の醸成 ・主権者教育の推進	・内容の体系化・カリキュラムマネジメントの推進 ・大学模擬授業1回、大学見学2回、職業研究会、「浜市ふるさと講座」・政策提言の実施	A	新課程で情報が乱立する中、生徒たちが自らの進路実現に向け、主体的に探究活動をすることができた。 総合的な探究の時間の内容を精査し、必要なタイミングで実施することができた。体系性についても、2年次との学習とのつながりを考慮し、ビブリオバトルのテーマを浜松市の課題へ変更できた。 市が生徒の提言を実際に検討する仕組みがあるとさらに探究意欲が高くなる。 名古屋大学見学会は大学の受け入れ態勢が変わり、今後日程面で検討が必要である。 大学模擬授業、大学見学会、進路講演会を実施し、講師の方と綿密な打ち合わせをすることでタイムリーで生徒のニーズに合わせたものに近づけることができた。
	・模擬試験を大事に受験する。 ・個別試験対策(論述等の指導)の充実により、難関大学挑戦の生徒を支援。	・模擬試験受験後に復習していると答える生徒90%以上。自宅受験を極力減らす。 ・入学時の志望進路の実現率60%以上。	B	進路だよりなどを通して、模擬試験の重要性、模擬試験の復習の重要性を伝えた。模擬試験に真剣に取り組む雰囲気ができている一方で、試験後の復習に取り組む生徒の割合が90%を下回る結果となった学年もあった。試験前後に進路だよりで各教科から模試の問題のポイントや今後の学習アドバイスを発信することができた。 共通テスト模試では、スタディサプリを用いて自己採点を提出させ、指導に活用することで効果的な指導につなげることができた。 3年生の個別指導においては、12月末までにのべ59名の個別指導を実施した。昨年度に比べて希望する人数が減少した。

	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
オ	・学校事故の防止、特に熱中症に対する教職員及び生徒の注意意識を高める。	・熱中症講座の実施年1回 ・5～10月熱中症計で計測し、毎週提出(夏季休業除く)する。	A	熱中症講座は1年生を対象に実施。新任教職員の参加も呼びかけている。生徒及び教職員ともに熱中症計での計測ができる。今後も取組を継続していく。 室温調節や集会等の場所の設定などに留意し、生徒にも注意喚起する等普段の生活から熱中症に留意した指導を行った。
	・防災教育・安全教育の充実 ・開かれた学校づくりの推進	・防災マニュアルや危機管理マニュアルを再点検し、改訂する。 ・学校安全計画の策定及び安全教育の実施 ・防災訓練・防災教育年3回以上。	A	市の防災マニュアルの内容に合わせ、今年度の校内防災マニュアルを作成し周知した。防災訓練は、避難訓練だけでなく防災倉庫の点検、防災用品の確認や生徒による被災についてのプレゼンテーションを行い、防災意識の高揚を図った。
	・1分間カウンセリングの実施 ・個人面談の充実 ・SCとの連携による相談体制の充実	・1年生9月に実施 ・個別面談年間2回以上。 ・正副担任・学年主任等との情報共有 ・「教師は悩みや相談に親身になってくれる」と答える生徒90%以上(生徒・保護者に対する相談対応の満足度)	B	1分間カウンセリングは10月に実施できたが、限られた時間のため十分に声を拾えているか不安がある。生徒の悩みや問題について教師間での共有に努めた。 アンケートでは肯定的回答が生徒90%弱、保護者75%程度(前年度より若干低下)であった。 不定期にも個人面談を実施し、進路や生活上での悩み等に応じた。特に、科目選択に合わせた面談では、時間をかけて生徒と向き合うことができた。 ・スクール・カウンセラー(SC)利用が昨年度よりもだいぶ増加した。本人からの利用希望が多い一方、こちらが声を掛けても大丈夫と拒否する生徒もいるため、支援が難しい場合もある。
	・学校内外の美化・清掃や校内施設・設備の点検 ・学習環境及び設備等の充実	・安全点検学期に1回以上、不備な箇所の改善 ・清掃用具点検年間3回以上 ・環境整備委員会の活動年間6回以上	A	清掃用具年3回点検は実施できた。要望を受け清掃用具購入、補充もできた。 中学生一日体験入学前日清掃をはじめ、各行事において環境整備委員はよく活動できている。 環境整備委員は、文化祭や体育大会後などに美化活動も行った。 教室環境の整備について、引き続き生徒用の机と椅子の更新を進めたが、年間数クラス程度にとどまり、大変時間を要している。サイズが小さく老朽化した生徒用ロッカーの更新が実現した。

	取組手段	成果目標	評価	成果と課題
カ	・年間計画における行事等の配置や内容を見直す。	・各学年・分掌、課長主任会等で意見の集約を図る。 ・教職員の本来業務(生徒に向き合う・指導の準備等)の時間確保のため、学校業務の整理・縮減を進め、出退勤時間の適正化に努める。	B	年間行事と授業時間確保の調整は概ね定めることができた。今後は教育課程における教育目標の達成のため、生徒の主体的な学習活動時間の確保と職員の働き方改革の両方を鑑みて、取り巻く環境の変化に応じて適切な見直しを進めていく必要がある。 GIGA委員会関連の行事を次年度年間行事に入れることができた。 毎週、生徒課会議を開催し、問題点の共有や生徒に関する情報交換をすることができた。特に今年度はいじめ対策委員会を立ち上げ、多くの先生方に関わってもらいながら学年や部活動の垣根を越えて、取組や対応の協議を行った。
	・計画的に部活動を実施する。	・部活動計画表の作成(年間又は各月) ・各部活動月平均8日以上休養日の設定(年間を通じて)	A	毎月の部活動計画表を作成、計画的に実施できた。休養日も大会日程に合わせ、年間を通してガイドラインを守ることができた。公式戦を控えている場合のテスト週間の短時間の活動にストレスを抱える生徒や保護者もあり、今後の課題である。
	・情報の一元化の推進 ・教育課題等を共有し、組織的に解決していく。	・共有フォルダを整理する。 ・課長主任会・課会・学年会・各種委員会等を活性化し着実に問題解決をしていく。	A	デバイス制御で、適合USBの利用に移行できた。引き続き学校の取組を検討、周知を継続していく。
	・学校運営協議会委員、保護者アンケート等の評価及び意見等を、学校づくりに活かす。	・「学校生活に満足している」と答える生徒90%以上。	A	「当てはまる」「大体当てはまる」と答えた生徒の割合は92.8%であった。
	・生徒一人一台端末導入に向けて、整備や研修を進める。	・仕様や活用ルール等具体想定して内容を詰めていく。 ・導入研修の実施	A	学年進行と共に生徒一人一台端末の利用が進んでいるように感じる。引き続き、授業以外の学年活動や学校活動、生徒会活動での活用を考える。
	・効率的な業務運用 ・会計等運用方法の見直し	・計画的な業務計画の推進 ・成績管理システム運用を進める。 ・学校予算運用の効率化	B	順調に成績管理システムを活用できている。 設備の修繕など学校予算を適切に執行した。